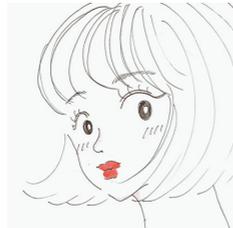


鯨の森

プロジェクションマッピングを用いた公園設備の提案



Name 加藤 千暁 / Kato Chisato

High School 北海道札幌月寒高等学校

Comment ありがとうございます！

Graduation Work

1 制作背景・目的

札幌市には、郊外だけでなく都心でより多くの市民がみどりを足りていると感じるかどうかという課題がある。そこで筆者は、「自然」や「植物」をモチーフにしたグラフィック表現が空間にあることによって、みどりというものの自体への意識や関心が惹かれ、その場にある樹木などの存在感が心の中では大きくなるのではないかと考えた。

本制作の目的は、公園の既存の設備を活用することで今までにない新しい価値を生み出し、活用の仕方次第で、空間に新たな楽しさを加えることができるという可能性を示すことである。

また、みどりを意識させることをコンセプトとした映像をプロジェクションマッピングで既存の公園遊具に投影することを想定し、そのイメージを表現することも目的としている。

2 制作

本制作は大通公園 9 丁目にあるプレイスロープ (図 1¹⁾) という大きな白い滑り台に、「自然」や「植物」をモチーフにした映像をプロジェクションマッピングで投影することを想定する。実際に投影用の映像をつくり、それを簡易的な

模型に投影し全体イメージを表現するという模型である。実際のプレイスロープで実演することが難しいため、実現した時のイメージを表現することとした (図 2)。

映像の内容は、このプレイスロープのある空間の名前である「鯨の森」をテーマに、自分なりの世界観で、自然やみどり、そして鯨をはじめとする生物を盛り込んだものである。

該当のプレイスロープは、全体的に横長の構造で、端から登った際にどこからでも滑ってあそぶことができるというのが大きな特徴である。今回制作した映像は 1 つの場面においても、数種類の生物やラインアニメーションなど、いくつかの要素で構成されており、子供たちがプレイスロープ上のどこで遊んでいても楽しめるよう、映像中の動きを分散させることを意識した。

映像は大まかに 3 つのシーンで分かれている (図 3)。また、映像の色に関しては、植物などを描写する際にこの映像が札幌の風景の一部であることをイメージして「札幌の景観色 70 色」²⁾ を使用している。そして、制作した映像を実際に模型に投影した。

3 まとめ

結果としては、札幌の景観色を使用するなど、札幌らしいみどり溢れる映像を制作することができた。

本制作の提案が、実際に大通公園のプレイスロープで実現した時には、今までにない既存の遊具の新しい活用の仕方として、その後の公園整備や機能分担において新たな可能性をもたらす事例になると考える。一部地域に密集した街区公園は、休憩スペースを主とした公園などに再整備する事案もあるため、今回のような映像を使用した視覚的にも、実際に遊んでも楽しい工夫は都市公園だけでなく身近な公園にも活かしていけるように思う。

都心のみどりを創出する観点では、実際に植栽等を増やし面積当たりのみどりの割合を大きくすることに加えて、映像やアートなどの視覚的要素がもたらすことで、より市民の感じるみどりの量は豊かになるのではないかとと思う。

出典

1) 得北、

<https://tokukita.jp/park/sapporo-odori-kouen-nishi9.html> (2022 年 12 月 1 日閲覧)

2) 札幌の美しい景観を考える会、札幌の景観色、<https://sapporocolor.jp/> (2022 年 11 月 16 日閲覧)



図 1 プレイスロープ¹⁾



図 2 投影の様子

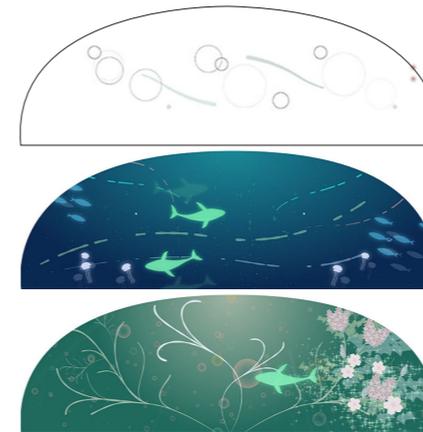


図 3 映像の構成イメージ

シーン 1

白いプレイスロープに徐々に雪が落ちていく。

シーン 2

鯨など海の生物が水中で泳ぐ様子。

シーン 3

みどりが豊かになっていく描写。鯨が通ると、草木が咲く。